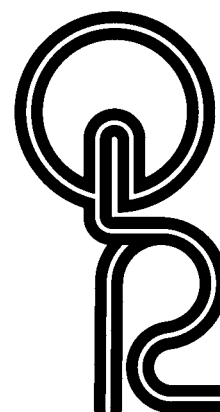


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 21 No.5, 2014



2014年度総会の後で開かれた表彰式より、表彰式にご出席いただいた功労賞受賞者の皆様。(右から五十嵐八枝子会員、広岡公夫会員、初倉克幹会員、守屋以智雄会員、安池直治氏、岩本容子氏) (2014年9月7日、撮影：米田 穰)

Vol. 21 No. 5

October 1, 2014

2014年大会報告.....	2	選挙制度・会員サービス向上検討委員	
プレ巡検報告.....	3	会答申と組織改革委員会の設置.....	7
ポスト巡検報告.....	4	2014年度総会議事録.....	7
名誉会員紹介.....	5	2014年度第1回評議員会議事録.....	13
功労賞受賞者に関するお詫び.....	6	2013年度第6回幹事会議事録.....	20
2015年大会のお知らせ.....	6	2014年度第1・2回幹事会議事録.....	23
INQUA名古屋大会登録開始のお知らせ.....	6	会員消息.....	23
		お詫び.....	23

◆日本第四紀学会 2014 年大会報告

東京大学柏キャンパス（千葉県柏市）において、9月5日（金）から9日（火）の5日間にわたって、日本第四紀学会2014年大会が開催されました。今大会では「日本の第四紀研究最前線—2015年INQUA名古屋大会へ向けて」というテーマが掲げられ、来年7～8月に名古屋で開催される国際第四紀学会連合（INQUA）第19回大会に準じて、5つのコミッションに対応したシンポジウムと一般研究発表で構成されました。一般研究発表では、口頭26件、ポスター57件の発表が行われ、それに加えて、シンポジウムⅠ「下部—中部更新統境界GSSP」13件、シンポジウムⅡ「更新世・完新世の資源環境と人類」21件、シンポジウムⅢ「プレート沈み込み境界における古地震・津波研究」17件、シンポジウムⅣ「東アジア～北西太平洋域における第四紀の気候と環境変動」15件、シンポジウムⅤ「第四紀の海水準変動と地球表層プロセス」23件の口頭発表が、大気海洋研究所講堂・講義室ならびに環境棟FSホールの3会場にわかれて実施されました。シンポジウムについては、東京大学大気海洋研究所と大学院新領域創成科学研究科の共催を頂きました。ポスター発表は、6日と8日の2セッションにわかれて発表されました。参加者は、会員217名、非会員101名にのぼりました。

本大会では39歳以下の若手会員による発表を対象とした若手発表賞が設けられ、61名がエントリーしました。審査に当たられた、吾妻 崇、岡崎浩子、岡田 誠、風岡 修、北村晃寿、紀藤典夫、近藤玲介、斉藤文紀、高田将志、辻 誠一郎、中里裕臣、中条武司、羽生淳子、百原 新の各会員には、この場を借りて御礼申し上げます。

6日の夜には評議員会（出席者26名、委任状提出者14名）、7日午後には総会（出席者75名、委任状提出者74名）が開催され、2013年度の事業・決算・会計監査・会員サービス向上検討委員会および選挙制度検討委員会の答申を含む各種委員会・各研究委員会の報告と、2014年度事業計画・

予算案と会則の一部改定等の審議が行われ、承認されました。総会終了後、学会賞2件、学術賞3件、論文賞1件、奨励賞1件、功労賞10件（会員8件、非会員2件）の授与式が行われました。

7日の夕方には、柏キャンパス内の「プラザ憩い」において懇親会が開かれました（参加者91名）。辻 誠一郎大会実行委員長のご挨拶、遠藤邦彦名誉会員による乾杯の御発声にはじまり、小口高会員の進行のもと会は和やかに進みました。途中、学会賞受賞者の小野有五会員と斎藤文紀会員、学術賞受賞者の阿部彩子会員と高原 光会員、論文賞受賞者の田島靖久会員、新たに名誉会員となられた上杉陽名誉会員と陶野郁雄名誉会員からご言葉を頂きました。最後に次年度開催校を代表して久保純子会員からご案内を頂き、奨励賞を受賞した亀井 翼会員による中締めで会は滞りなく終了しました。

5日には、プレ巡検として「更新世前期—中期境界の国際モードポイント候補地の巡検—房総半島養老川（千葉セクション）—」（参加者14名、案内者5名）が実施され、千葉縣市原市田淵の国際モードポイント候補地や養老溪谷などを巡検しました。また、9日にはポスト巡検として「第四紀年代測定等最新施設見学ツアー」（参加者7名、案内者6名）が行われ、東京大学大気海洋研究所のシングルステージ加速器質量分析装置やレーザーアブレーション高分解能ICP質量分析装置等を見学した後、つくば市に移動して産業技術総合研究所のルミネッセンス実験室、地質標本館などを見学しました。

大会の準備に当たりましては、お忙しい中、早くから準備を進めて頂き、お魚倶楽部はまの特別ランチなどきめ細やかな大会運営をして下さいました。辻 誠一郎実行委員会委員長、阿部彩子、小口 高、川幡穂高、須貝俊彦、田村 亨、横山祐典各会員からなる実行委員会をはじめとする、運営スタッフの皆様にご心より御礼申し上げます。

◆日本第四紀学会 2014 年大会プレ巡検参加報告

東京大学大気海洋研究所 関 有沙

日本第四紀学会 2014 年大会プレ巡検は、9 月 5 日「更新世前期－中期境界に関する房総半島養老川沿いの巡検」をテーマに、房総半島で実施された。今年の巡検は「古地磁気夏の学校（東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会 地磁気・古地磁気・岩石磁気学の最前線と応用）」との共催で行われ、参加者は案内者を含め総勢 44 名となった。案内者は、風岡 修氏（千葉県地質環境研究室）、岡田 誠氏（茨城大学理学部）、菅沼悠介氏（国立極地研究所）、吉田 剛氏（千葉県地質環境研究室）、香川 淳氏（千葉県地質環境研究室）、荻津 達氏（千葉県地質環境研究室）の 6 名であった。

東京大学柏キャンパスからバスを走らせること 2 時間強、最初の地点である田淵会館に到着した。ここでは、本日のメインである更新世前期－中期境界露頭を見学した。この露頭は、更新世前期－中期境界の国際模式ポイントの候補地になっている。今回見学した房総の露頭の他にはイタリアの露頭が更新世前期－中期境界の国際模式ポイントの候補地として挙げられているが、房総の露頭の方が堆積速度が早いため、長時間解像度の記録がとれるという利点がある、との説明を受けた。また、この露頭では、昨年古地磁気の再測定を行い、近年の技術の進歩により 20 年前の測定とは地磁気

逆転の層順がずれたこと等の説明があり、古地磁気を専門としていない参加者には新鮮な内容であった。

Loc.2 の養老川渓谷遊歩道沿いの露頭では、ハラミヨイベントの地層の見学を行った。この露頭では、緩く傾斜した砂泥互層の砂層の部分から湧水が見られた。ここでは遊歩道が整備されていて歩きやすいということもあって、地下水の勉強会等も開催されるそうである。

Loc.3 の栗又の滝は千葉県最大の滝だそうである。こちらも遊歩道が整備されているため一般の方も訪れており、滝壺近くのテフラ (kd18) を観察しながら、滝の景観を楽しんだ。

最後の Loc.4 では黄和田層下部の、古地磁気層序オールドバイイベント近くの地層を観察した。この露頭ではヒルが多く見られたが、ヒルを見たことが無い参加者も複数おり、フィールドワークの一端を経験する良い機会ともなった。

夕方、道の駅で地元のお土産を買い、予定よりも少し早い解散となったが、参加者はそれぞれの場所で十分に楽しめた巡検となった。また、今回は古地磁気夏の学校との共催ということで、双方の参加者の交流もできた。巡検を企画・案内していただいた案内者の方々に感謝申し上げます。



Loc.3 で養老川沿いの露頭を見学する参加者

◆日本第四紀学会 2014 年大会ポスト巡検の報告

日本原子力研究開発機構 渡邊隆広

2014年9月9日に開催された第四紀学会のポスト巡検（第四紀年代測定等最新施設見学ツアー）に参加した。巡検参加者は7名であった。午前中の前半は東京大学大気海洋研究所において海洋生物実験施設を見学させていただいた。サケ・マス類、ウナギ、サメ類を飼育する設備について説明を受け、最大3tの水槽を配備した大飼育室、光調節可能な飼育室、熱水環境に生息する深海ヒバリガイ等を飼育する特殊環境実験施設を同研究所の渡邊太郎氏より紹介していただいた。様々な分析装置を備えた実験室もあり、特に熱水環境下での生物活動と物質循環に関する基礎研究と新たな情報取得が期待される特殊環境実験施設は興味深く印象に残った。また、岩手県の大槌湾における東日本震災後の環境影響評価や生態系調査が進められているとのことであった。

午前中の後半は同研究所の横山祐典研究室に設置されているレーザーアブレーション高分解能誘導結合プラズマ質量分析装置（LA-HR-ICPMS）を見学させていただいた。実験室ではLA-HR-ICPMSによる実際のサンゴ試料の高分解能化学分析を実演していただいた。サンゴ化石等の地球科学試料を用いてモンスーン気候地域の古環境復元が進められているとのことである。加えて、放射性炭素（ ^{14}C ）年代測定用の250keV シングルステージ加速器質量分析装置（SS-AMS）を見学した。東京大学の横山祐典准教授および宮入陽介博士からAMS装置等について丁寧な説明をしていただいた。 ^{14}C 測定は地球科学、環境科学、生態学、考古学等、様々な分野で応用されており、 ^{14}C 測定に特化した小型AMSの普及が進んでいる。小型装置ではあるが、1日に20試料程度の測定が可能であり、バックグラウンドに相当する年代値は45000年前程度とのことであった。また、 ^{14}C 測定の前処理用ガラス製真空ライン等も紹介していただいた。

午後はつくば市の産業技術総合研究所に移動し、田村 了博士 および伊藤一充博士による光ルミネッセンス（OSL）年代測定法の概要説明の後、OSL実験施設および測定装置の見学をさせていただいた。実験室には3台のOSL装置が並び、その内1台はシングルグレイン（一粒の大きさが約250マイクロメートル）でのOSL測定に対応可能とのことであった。見学会では配布試料と口頭による終始丁寧な説明に加え、実際の作業を見学させていただいたので素人である私にもイメージが良く伝わった。巡検中は各専門家による質疑応答があり、こちらも非常に良い勉強をさせていただいた。巡検を担当していただいたスタッフの皆様には心より深く感謝申し上げます。

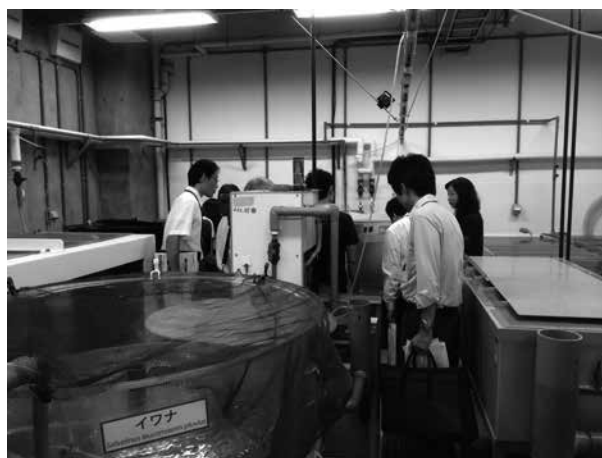


図1. 東京大学大気海洋研究所海洋生物実験施設での見学



図2. 東京大学大気海洋研究所の加速器質量分析装置が設置されている実験棟



図3. シングルステージ加速器質量分析装置（加速管部分）

◆新名誉会員の紹介

名誉会員の検討を行うため、名誉会員候補者選考委員会（山崎晴雄委員長、久保純子、小池裕子、辻誠一郎、渡邊眞紀子各委員）が組織されました。選考委員会では電子メールによる意見交換を経て、5月10日に首都大学東京秋葉原キャンパスにて委員会を開催しました。選考は日本第四紀学会会則および名誉会員選考規程に基づき、年齢・会員歴の条件を満たす会員のうちから、学会役員歴、学会賞・学術賞等の受賞経験、第四紀学および日本第四紀学会への貢献等について慎重に審議を行い、4名の会員が名誉会員候補者として推薦されました。その後、6月7日の名古屋大学にて開催された評議員会において、この4名を名誉会員候補者とする事が決定され、9月7日の日本第四紀学会2014年柏大会での総会において、決議されました（お名前はアルファベット順）。

名誉会員 遠藤邦彦氏



推薦理由：遠藤邦彦会員（1942年生）は、1966年以來の日本第四紀学会会員で、主として第四紀環境変動、テフラ層序・編年、火山活動史、海岸平野発達史など第四紀学の幅広い領域において多くの研究成果を上げられました。海岸平野の砂丘形成史研究における砂丘・クロスナ層序・編年は、その後の沿岸域における環境変遷研究の模範となっています。上杉陽氏とともに取り組まれた大磯丘陵におけるテフラ層序・編年研究は、その後のテフラ研究に大きな影響を与えてきました。関東平野の形成史研究は、沖積層層序・編年研究および更新世・完新世環境変動史研究の発展を促進しました。これら第四紀学の基礎的研究をベースにした中国内陸部や長江流域における環境変動史に関する共同研究は、日本・中国の第四紀学の方法論の開発や普及に大きく貢献してきました。一方、教育面では長きにわたって日本大学で教鞭をとられ、多くの第四紀学の研究者を育てられました。日本第四紀学会では、1977年以來通算14期にわたって評議員を務められ、この間、通算7期にわたって幹事を、副会長を1期、2009年からは会長を2期にわたって務められ、学会の発展に大きく貢献されました。また、学会の50周年記念出版物である『デジタルブック最新第四紀学』（2009年）では編集と出版に尽力されました。

以上のように、遠藤邦彦会員の第四紀学および日本第四紀学会に対する功績は誠に顕著であり、ここに本学会の名誉会員として推薦いたします。

名誉会員 岡田篤正氏



推薦理由：岡田篤正会員（1942年生）は、1968年に「第四紀研究」に「阿波池田付近の中央構造線の新时期断層運動」を発表して以来、愛知県立大学・京都大学・立命館大学等において長年にわたり全国の活断層の変位地形と活動史の解明に取り組んでこられました。四国の中央構造線活断層帯をはじめ、全国の多くの活断層の変位地形を明らかにするとともに、トレンチ調査を実施して活動履歴を解明し、長期評価のための調査手法を確立させました。このほか、南米、ニュージーランド、フィリピン、韓国などでも地殻変動や活断層に関する調査・研究を進めました。さらに、『日本の活断層—分布図と資料』（1980年）、『日本第四紀地図』（1987年）、『九州の活構造』（1989年）、『変動地形とテクトニクス』（1990年）、『新編日本の活断層—分布図と資料』（1991年）、『近畿の活断層』（2000年）などを次々と刊行されました。また、1995年の兵庫県南部地震以降、兵庫県をはじめ自治体の活断層調査や国土地理院の都市圏活断層図作成などにおいても指導的役割を果たされました。

日本第四紀学会においては12期にわたり評議員を務め、編集幹事や1999年京都大会実行委員長として、学会の発展に寄与されました。これらの功績から、2010年に学会賞（変位地形を用いた活断層の活動史および活断層危険度評価に関する一連の研究）を受賞されています。

以上のように、岡田篤正会員の第四紀学および日本第四紀学会に対する功績は誠に顕著であり、ここに本学会の名誉会員として推薦いたします。

名誉会員 陶野郁雄氏



推薦理由：陶野郁雄会員（1941年生）は、自然災害研究分野、特に地震による液状化現象や地盤沈下など、工学分野からの第四紀研究に長年たずさわってこられました。1967年頃より新潟地震（1964年）の液状化地点の調査を始め、また当時関東平野・濃尾平野・大阪平野・筑後佐賀平野・新潟平野など全国で生じた地盤沈下を精力的に調査し、堆積年代と地盤物性の関係を解明されました。1978年宮城県沖地震以降は、地震に伴う液状化や圧密現象の研究において、実験と野外観察の両面から大きな貢献をし、これら一連の研究成果は、『地盤沈下とその対策』（共著、1990年、白亜書房）、『地質・地形条件に基づく液状化ポテンシャル』（2000年、第四紀研究39巻）、『デジタルブック最新第四紀学』（2009年、第四紀学会）などに顕著に表れています。陶野郁雄会員は、1981年から15期30年間にわたって工学分野の評議員を務めてきました。その間に、1995年

兵庫県南部地震の直後には他学会に先駆けて調査速報会を開催し、また2008～2012年には「地球温暖化問題を検討する研究委員会」の代表として各地でシンポジウムを開催し、本学会の運営と研究成果の普及に貢献されました。これらの第四紀学への貢献により、2013年に学会賞「自然災害に対する第四紀学の応用的研究への一連の貢献」が授与されました。

以上のように、陶野郁雄会員の第四紀学および日本第四紀学会に対する功績は誠に顕著であり、ここに本学会の名誉会員として推薦いたします。

名誉会員 上杉 陽氏



推薦理由: 上杉 陽会員(1941年生)は、1966年以來の第四紀学会会員であり、評議員(15期)、幹事(8期)、幹事長(1期)を歴任されました。関東第四紀研究会の中心のひとりとして活動され、富士・箱根のテフラを用いた南関東の大磯丘陵を中心とする火山灰層序編年学への多大な貢献など、長年にわたりわが国の第四紀学の発展に大きく寄与されました。旧石器時代や縄文時代の自然環境について、層序から明らかにできることは何かを常に問いかけてこられ、考古学や遺跡調査の方々といっしょに全国をまわり、膨大な業績をあげられました(共編『考古学と年代測定学・地球科学』同成社、1999ほか)。欧米で提唱された粒度分析研究の考え方が日本の堆積物で適用できるかどうか、日本各地の現世砂、古期砂を対象として粒度分析の方法論の開拓に取り組み、粒度と堆積速度を関連づけて、風成砂と海成砂を区分する基礎的手法を確立されました(「ふるいを用いた

粒度分析方法の吟味—風成・海成の環境区分のために—」地理学評論44巻、1971年、「粒径頻度分布からみた風成砂・海成砂の諸特徴」第四紀研究11巻2号、1972年)。また、会員の責務や研究者倫理などの憲章づくりに貢献され、これにより、日本第四紀学会は他の学会に比べて早い時期に倫理憲章を作成、採択することができました。

以上のように、上杉 陽会員の第四紀学および日本第四紀学会に対する功績は誠に顕著であり、ここに本学会の名誉会員として推薦いたします。

◆功労賞受賞者に関するお詫び

赤木三郎会員は、去る6月7日に開催された2013年度第3回評議員会において2014年功労賞受賞者に決まりましたが、既に2月5日にご逝去されていたことが後日になって判明しました。故人のご冥福をお祈りするとともに、確認を怠ったことに対して深くお詫び申し上げます。受賞につきましては、例外的な対応ではありますが、赤木三郎会員を決定通り功労賞受賞者とすることが2014年度第1回評議員会において確認されました。

(幹事長 水野清秀)

◆2015年度大会のお知らせ

日程: 2015年8月29日(土)～30日(日)

場所: 早稲田大学

会期を2日しか設けておりませんので、従来の発表数を受付けることができないと予想されます。会員の皆様におかれましては、2015年7月27日(月)から8月2日(日)に開かれますINQUA名古屋大会にて、積極的にご発表ください。

◆INQUA 名古屋大会 登録開始のお知らせ

国際第四紀学連合(INQUA)第19回名古屋大会の要旨投稿と登録が始まりました。大会のホームページから申し込んでください。

<http://inqua2015.jp>

2014年12月20日が締め切りになります。巡検の申し込み受付は10月中旬を予定しています。皆様の投稿と参加をお待ちしています。

◆「選挙制度検討委員会」及び「会員サービス向上検討委員会」答申と意見募集ならびにそれらを受けての「組織改革委員会（仮称）」設置について

日本第四紀学会では、学会活動の活性化を進める目的で、2つの特別委員会、「選挙制度検討委員会」（中島 礼委員長、北田奈緒子、高田将志、兵頭政幸、堀 和明各委員：分野別会員数と評議員定数の検討、現行選挙制度の検討、投票率を上げるための方策、会長・副会長の選出方法、推薦または立候補制の可否、などの検討）と「会員サービス向上検討委員会」（三浦英樹委員長、熊原康博副委員長、竹村恵二、田村糸子、松浦秀治各委員：会員を増やすための方策、大会や会誌充実のための方策、日本第四紀学会会員であるためのメリットをアピールする方策、などの検討）を設置し、検討を進めてきました。それぞれの委員会では、答申が取りまとめられ、2014年7月に会長あてに提出されました。その原文を日本第四紀学会ホームページの以下のサイトにおきましたので、お読みください。

なお、この答申は会員のみ限定公開とするため、ファイルを開くのにパスワードが必要です。

2つの検討委員会の答申内容を併せると、会長・副会長や評議員・幹事などの選出方法と評議員会・幹事会などの体制、学会誌の編集・発行、大会運営、研究委員会、顕彰制度、若手や高齢者会員への対応、学会の広報活動、事務の効率化と予算の有効活用、情報伝達手段、学会の存在意義に関する事など多岐にわたっています。幹事会では、その対応について検討を行い、改革に向けてすぐにでも始められること、考え方に個人差があり、会員に広く意見を聞くべきこと、期限を決めて重点的に進めるべきことなどに分けて取り組んでいくつもりです。たとえば、事務の効率化や、第四紀学及び第四紀学会の知名度を上げるための広報活動の強化などは、すぐに対応すべきことと考え、具体的な方策を進めてまいります。また、会員の皆様からも、答申に対するコメントでも、独自の提言でも結構ですので、ご意見をいただきたいと思っております。ご意見は電子メールの場合は、タイトルをたとえば「選挙制度検討委員会答申に対する意見」、「顕彰制度に対する意見」などとして、日本第四紀学会事務局 あて、お送りください。

縮切は、2014年11月30日（日）とします。

両検討委員会の答申に共通していることは、第四紀学会を活性化するためには、専門分野の区分や選挙方法、評議員会や幹事会などの運営体制を大きく見直す必要があるということで、幹事会ではこのことに重点的に取り組みたいと考えています。それに関連した会則の改訂案作成を含めて、特別委員会「組織改革委員会（仮称）」を設置して検討を行うことが今回の評議員会において承認されました。委員会の構成メンバーは、会長、副会長、幹事を含む5、6名程度とし、今回、委員を公募することにします。この特別委員会では、数回程度の会合を開き、それ以外はメール会議を中心として議論します。第四紀学会の特徴は様々な分野の人が集まっていることであり、分野間の交流・融合によって研究がより進んでいくものと思います。そのような学会の運営体制と研究体制がうまくかみ合った新しい選挙方法と体制について、2015年7月を期限として具体的な提案としてまとめたいと考えています。このような議論を進める「組織改革委員会（仮称）」委員を希望される方は、10月24日（金）までに、電子メールにて、幹事長・水野清秀 あて、ご連絡ください。特に、これまで日本第四紀学会では主流ではなかった研究分野の方、若手・中堅の方を歓迎いたします。（幹事長 水野清秀）

◆ 2014 年度総会議事録

日時：2014年9月7日 15:00～17:00

場所：東京大学柏キャンパス、環境棟 FS ホール

水野清秀幹事長の司会で、辻大会実行委員長、小野会長のあいさつの後、鈴木毅彦評議員を議長に選出した。定足数確認（出席者75名、委任状85通）後、スライド・配布資料に基づき、下記の報告・審議が行われた。

I 報告事項

1. 2013年度事業報告（2013年8月1日～2014年7月31日）

1-1 庶務

- 1) 総会（1回）・評議員会（3回）・幹事会（6回）を開催した。
- 2) 会員動向（2014年7月31日現在）：正会員1286名（うち学生・院生会費会員89名、海外会員11名を含む）、名誉会員14名、賛助会員10社。逝去会員：赤木三郎会員、岩崎孝明会員、亀井節夫会員、木越邦彦会員、北川芳男会員、小池一之会員、的場保望会員。
- 3) 学会賞・学術賞受賞者選考、論文賞・奨励賞受賞者選考、功労賞選考、名誉会員候補者選考に

関する業務を行った。

- 4) 会則・規約の改正、内規の制定などを検討した。
- 5) 会員サービス向上検討委員会、選挙制度検討委員会の答申を受け、特別委員会を設置することとした。
- 6) 転載許可・受け入れ図書 of 整理を行った。
- 7) 学会・シンポジウム等の共催・後援に関連する業務を行った。
- 8) 日本学術振興会賞などの賞への学会推薦を行った。
- 9) その他学会活動に関する庶務業務を行った。

1-2 会計

- 1) 会計に関する承認業務を行った。
- 2) 2012 年度の収支決算を報告した。2013 年度の予算を提案した。
- 3) 会計監査を受けた。
- 4) 研究委員会の実施報告・年度計画をとりまとめた。

1-3 行事・企画

- 1) 2014 年 9 月 5 日～9 日に東京大学柏キャンパスで開催する日本第四紀学会 2014 年大会の準備を行った。
- 2) 日本第四紀学会 2015 年大会は 2015 年 8 月に早稲田大学で開催予定。
- 3) 学会賞・学術賞受賞者講演会を 2014 年 2 月 2 日、6 月 7 日に実施した。
- 4) 2014 年 5 月 21～23 日に東京大学で放射性炭素年代測定の講習会を実施した。

1-4 編集

- 1) 第四紀研究第 52 巻第 5 号（寒川会員学術賞受賞記念論文、論説 2 編 総説 1 編、書評 1 編、50 頁）、第 6 号（論説 1 編、短報 1 編、書評 2 編、30 頁）を刊行した。第 52 巻の総頁数は 270 頁である（第 51 巻：332 頁）。第 53 巻第 1 号（兵頭会員学術賞受賞記念論文、論説 2 編、短報 1 編、74 頁）、第 2 号（成瀬会員学術賞受賞記念論文、短報 1 編、講座 2 編、44 頁）、第 3 号（河村会員学会賞受賞記念論文、論説 2 編、講座 1 編、書評 2 編、72 頁）、第 4 号（弘前大会特集号 4 編、講座 1 編、書評 2 編、50 頁）を刊行した。
- 2) 2013 年度日本第四紀学会賞および学術賞受賞者に受賞記念論文を依頼した。第 54 巻以降に掲載予定である。
- 3) 編集委員会は 6 回（2013 年 9 月 28 日、11 月 16 日、2014 年 1 月 25 日、3 月 22 日、5 月 31 日、8 月 3 日）開催した。8 月 30 日現在、受理済み原稿は 7 編（特集論文 2 編と通常論文 3 編を 53 巻 5 号に、残り 2 編は 53 巻 6 号に掲載予定）、手持ち原稿は論説 9 編、短報 5 編、講座 1 編である。なお、特集号・雑録・書評を除く投稿数は、2013 年は 26 編（2012 年は 22 編、2011 年は 25 編）であった。
- 4) 編集状況や問題点は「編集委員会だより」を通じて、会員に知らせるように努めた。原稿の投稿を「編集委員会だより」にて呼びかけた。
- 5) J-STAGE による電子ジャーナル化を行っており、現在のところ 52 巻 5 号までのアップロードと公開が完了している。最新号から過去 1 年間

の論文の会員認証を無くしたので（2012 年度第 3 回評議員会）、アップロードと点検が終われば、会員外を含め、閲覧・ダウンロードが可能となる。

1-5 広報

- 1) 広報委員会を組織して、第四紀通信の編集およびホームページの維持管理を行った。
- 2) 「第四紀通信」第 20 巻 5、6 号、第 21 巻 1、2、3、4 号を編集し、発行した。
- 3) 「第四紀通信」上記各号の電子版（pdf 版）を、それぞれ発行前月の中旬に日本第四紀学会ホームページに掲載した。
- 4) 日本第四紀学会ホームページを通じて広報、情報提供、アウトリーチ活動等を行った。
- 5) 日本第四紀学会会員メーリングリストを通じて各種情報提供等を行った。
- 6) 日本第四紀学会評議員会メーリングリストおよび日本第四紀学会幹事会メーリングリストの管理を行った。

1-6 渉外

日本地球惑星科学連合の連合大会セッションで、『ヒトー環境系の時系列ダイナミクス』、『活断層と古地震』、『平野地質ー第四紀層序と地質構造ー』を開催した。

1-7 国際第四紀学連合第 19 回大会

国際第四紀学連合第 19 回大会組織委員会を中心に、2015 年 7 月 27 日～8 月 2 日に名古屋で開催予定の第 19 回 INQUA 大会の準備を進めた。

2. 2013 年度決算報告・会計監査報告（本通信の 2014 年度第 1 回評議員議事録に掲載）
3. 若手・学生発表賞を加えた学会賞規定改訂（本通信の 2014 年度第 1 回評議員議事録に掲載）
4. 日本第四紀学会若手・学生発表賞選考に関する内規の制定（本通信の 2014 年度第 1 回評議員議事録に掲載）
5. 評議員会・総会における欠席者の委任等に関する内規の制定（本通信の 2014 年度第 1 回評議員議事録に掲載）
6. 研究委員会報告（資料 1）
7. 学会賞・学術賞受賞者選考報告（資料 2、詳しくは第四紀通信次号を参照）
8. 論文賞・奨励賞受賞者・受賞論文選考報告（資料 3、詳しくは第四紀通信次号を参照）
9. 功労賞受賞者選考報告（資料 4）
10. 会員サービス向上検討委員会報告
竹村恵二委員より報告が行われた。答申内容は日本第四紀学会ホームページに掲載した。
11. 選挙制度検討委員会報告
中島 礼委員長より報告が行われた。答申内容は日本第四紀学会ホームページに掲載した。
12. 国際第四紀学連合第 19 回大会組織委員会報告（資料 5）
13. 日本学術会議・INQUA 国内委員会等報告（資料 6）

II 審議事項

1. 2014 年度事業計画（2014 年 8 月 1 日～2015 年 7 月 31 日；本通信の 2014 年度第 1

- 回評議員会議事録に掲載)を審議し、承認した。
- 2014 年度予算案(本通信の 2014 年度第 1 回評議員会議事録に掲載)を審議し、承認した。
 - 会員の入退会に関わる会則改訂案(本通信の 2014 年度第 1 回評議員会議事録に掲載)を審議し、承認した。
 - 名誉会員を審議し、承認した。詳細は第四紀通信本号の「新名誉会員の紹介」にて報告済み。なお、工学分野評議員に欠員が生じたことになったため、次点者の安田 進会員を 2014 年度の評議員に補充することとした。

(資料 1)

研究委員会報告

最終氷期最盛期における北東アジアの生態系変遷と人類の応答(代表者:出穂雅実)

- 古環境の既存研究成果のデータベース化を行った。
- 8~9月に北海道上土幌町嶋木遺跡において発掘調査を実施した。
- 9~10月にロシア・トランスバイカルとモンゴル北部で野外調査を行った。
- 11月29日に首都大で International Workshop *Changes in Behavioral and Technological Adaptation around the LGM in Eurasia* (2nd LGM workshop in Tokyo) を開催した。発表は計 10 件、国別の発表者は、アメリカ 2 名、フランス 1 名、ドイツ 1 名、ロシア 1 名、中国 1 名、日本 4 名であった。合計 28 名の参加があった。今回の会議では、ユーラシア大陸の西端・中央・東端における LGM 前後の人類行動の変化について発表が行われ、発表後には活発な討議が行われた。

テフラ火山研究委員会(代表者:植木岳雪)

2013 年 11 月 9 日(土)に首都大学東京南大沢キャンパス 91 年館において、シンポジウム「関東地方の地形・地質・テフラ研究の現状と今後の方向性」を開催した。一般の参加者を含めて、60 名以上の参加があった。また、INQUA 名古屋大会でのセッション公募に対して、テフラ・火山研究に関連するセッションを申請した。

古気候変動研究委員会(代表者:公文富士夫)

指標テフラの標準年代とそれを組み込んだ気候編年の試案の作成作業を個別的な努力で行っているが、共有化して議論を進めるには至らなかった。2014 年 6 月に WS 開催を予定していたが、2014 年 9 月に学術大会で古気候関係のシンポジウムを開催することにしたので、独自の開催は中止した。大会のシンポジウム(IV)では 5 件の招待講演を柱に、合計 22 件の講演が予定されており、2015 年に開催される INQUA 名古屋を契機とする研究活動の進展をはかることができた。INQUA2015 にはセッションをひとつ提案した。

古地震・ネオテクトニクス研究委員会(代表者:藤原 治)

INQUA の Terrestrial Processes, Deposits and History の Focus Area Group “Paleoseismology and Active Tectonics” に対する国内活動の推進を主目的とする。近年社会的に注目されている古地震や古津波の研究についてのアウトリーチや、関連諸分野との連携を深めることを目指す。2015 年 INQUA 名古屋大会へ向けて、巡検の下見などを行った。

(資料 2)

学会賞・学術賞受賞者選考報告

(1) 選考経過

本年度の学会賞等の候補者の推薦・立候補は 1 月 31 日をもって締め切られ、それまでに学会賞に 2 名と 1 グループ(3 名から構成)、学術賞に 4 名の候補者が推薦され、学会賞受賞者選考委員会(中村俊夫委員長、海津正倫、河村善也、杉山雄一、高原 光各委員)にて検討された。選考委員会では推薦のあった候補者について日本第四紀学会学会賞規定、同内規に基づき、推薦文書、各委員が収集し持ち寄った業績目録および幹事会から提供のあった学会活動等に関する資料を参照して審議を行った。なお、選考にあたり、学会賞は第四紀学会正会員としての「学術的な業績」・「第四紀学に貢献した活動」・「学会に貢献した活動」を選考基準とし、学術賞は第四紀学会正会員としての「学術的な業績」を選考基準とした。また、選考委員が授賞候補者となっている事項については、当該選考委員を外した 4 名の選考委員にて選考を行い、既に学術賞を受賞している学会賞受賞候補者については、学術賞受賞後の「学術的な業績」も選考基準に加えた。電子メール上での意見交換および 5 月 17 日の選考委員会での審議により受賞候補者を決定した。その後、6 月 7 日に行われた評議員会において審議され、下記の通り受賞者が決定された。詳しくは、次号の第四紀通信(21 巻 6 号、2014 年 12 月発行予定)にて報告する。

(2) 受賞者

学会賞:小野有五、斎藤文紀

学術賞:阿部彩子、池原 研、高原 光

(資料 3)

論文賞・奨励賞受賞者、受賞論文選考報告(論文賞受賞者選考委員会、幹事会)

(1) 選考経過

会員からの推薦は 2014 年 1 月 31 日に締め切られ、論文賞・奨励賞に対して会員からの推薦はなかった。2014 年論文賞受賞者選考委員会(三田村宗樹委員長、荻谷愛彦、近藤 恵、里口保文、横山祐典各委員)では、2 月以降に委員長を委員互選のうえ決定し、選考日程と進め方の確認を行ったうえで、各賞の候補論文について選考を進めた。選考は日本第四紀学会「論文賞と奨励賞選考に関する内規」に基づき下記の手順で行った。本年度の該当論文は全体で 37 編であり、うち奨励賞該当は 4 編である。選考経緯は次のとおりである。各委員に対して各賞候補となる論文の推薦依頼(3/19~4/12)を行った後、委員から推薦

された論文（論文賞 5 編、奨励賞 2 編）について、委員からの意見の取りまとめと絞り込みを行い（4/21）、委員全員の評価を得られた論文賞候補 1 編、奨励賞候補 1 編の推薦を決定した。

委員会では、各賞とも十分なオリジナルデータに基づいて分析・議論された論文を重視し、論文賞については、独創性・総合性・第四紀学及び一般社会への発展性を、奨励賞については独創性と第四紀学での発展性を特に重視して選考を行った。最終候補者・候補論文に対して、6月7日に行われた評議員会において審議され、下記のとおり受賞者・受賞論文が決定された。詳しくは、次号の第四紀通信（21 巻 6 号、2014 年 12 月発行予定）にて報告する。

(2) 受賞者・受賞論文

論文賞：田島靖久・林 信太郎・安田 敦・伊藤英之。

テフラ層序による霧島火山、新燃岳の噴火活動史。第四紀研究、52 巻 4 号、151 - 171 頁。

奨励賞：亀井 翼。モグラによる遺物の埋没と埋没後擾乱一茨城県稲敷郡美浦村陸平貝塚を対象として一。第四紀研究、52 巻 1 号、1 - 12 頁。

(資料 4)

功労賞受賞者選考報告

(1) 経過報告

幹事会では、2014 年 2 月 2 日に幹事会を開催して、功労賞候補者を検討した。会員に対しては、長年にわたり第四紀学ならびに第四紀学会に貢献されてきた方のうち、概ね 75 才以上の方を検討対象とした（年齢は 2013 年 12 月 31 日時点）。第四紀学会への貢献は、評議員や各種委員の経験年数などをポイントとして計測し、さらにその上位者から学術的な貢献を加味して検討した。顕彰の重複をさけるため、既に名誉会員となっている方や学会賞受賞者は候補者からはずした。その結果、8 名の会員を推薦することとした。一方、非会員に対しては、今回、第四紀層の露頭保存に長年尽力されている方と、第四紀通信の編集作業を 10 年間行ってこられた方、あわせて 2 名を推薦することにした。6 月 7 日の評議員会においてこれらの方々の功労賞受賞が決定した。

(2) 受賞者

会員受賞者：赤木三郎会員、五十嵐八枝子会員、酒井潤一、高野武男会員、広岡公夫会員、

藤井昭二会員、羽倉克幹会員、守屋以智雄会員

受賞理由：長年に亘り、日本第四紀学会会員として各種役職を歴任され、本学会の発展に貢献されたとともに、第四紀学研究の発展に寄与された。これらの功績に対して、功労賞を贈る。

非会員受賞者：安池直治氏（神奈川県平塚市在住）

受賞理由：安池直治氏は、長年にわたり、第四紀層の露頭整備と保存に尽力された。昭和 50 年以前から、神奈川県大磯丘陵内にある最終間氷期の代表的な地層である吉沢層と吉沢ローム層が露出しているご自身所有の土地の崖を、草を刈り、斜面状の足場を作ったり、道に砂利を敷くなどして整備し、研究者や一般者に観察しやすいように、開放されているとともに、貴重な露

頭保存に取り組んでこられた。現在では、安池氏のご厚意により、神奈川大学、東海大学が露頭観察を授業に取り入れているほか、地元の小学校などでも、定期的に地層の観察会が行われている。日本第四紀学会では、露頭の保存運動を進めており、50 周年大会の巡検において、この露頭を見学させていただいた。これらのご尽力に対して功労賞を贈る。

非会員受賞者：岩本容子氏（広報編集書記、兵庫県明石市在住）

受賞理由：岩本容子氏は、2003 年度から現在まで、10 年間以上の長期にわたり「第四紀通信」の編集書記を担当され、編集作業に尽力されてこられた。そのご尽力に対して功労賞を贈る。

(資料 5)

国際第四紀学連合第 19 回大会組織委員会報告

組織委員会幹事会を 7 回（第 13 回～第 19 回：2013 年 10 月 12 日、12 月 1 日、2 月 2 日、3 月 9 日、4 月 13 日、5 月 25 日、7 月 15 日）に開催し、プログラム編成、巡検コース・案内者、研究機関等への協力依頼、大会ホームページ、各種登録システム等について検討した。

学術プログラムについては、セッション提案受付を 2014 年 1 月に開始し、大会ホームページで公開するとともに、INQUA のホームページや 5 つの委員会を通じて関係者に通知したほか、国内の協力学協会にセッション提案を依頼する案内を発送した。その結果、約 130 件の提案を受け付け、提案内容の重複等を検討したうえで最終案を作成している。大会ホームページについては、2013 年 10 月に日本語サイトを公開し、日程、会場、大会運営組織等に関する情報を掲載している。その後、INQUA 執行部の名古屋大会のプログラム委員会委員長の Allan Chivas 氏（INQUA 前会長）の確認を受け、更新作業を行っている。セッション提案については、2014 年 3 月末日まで受け付ける。募金委員会では、会員からの募金をお願いするための口座を開設し、「第四紀通信」に協力依頼文を掲載した。その他、INQUA に関連する記事を第四紀通信に連載するとともに、大会準備以外の活動として、“Quaternary International” 日本特集号の出版の承認を得て、原稿募集している。

(資料 6)

日本学術会議・INQUA 国内委員会等報告

第 22 期日本学術会議地球惑星科学委員会 INQUA 分科会報告

1) 2014 年は 2015 年第 19 回 INQUA 名古屋大会組織委員会での活動を中心としたために、分科会独自の企画は行わなかった。

2) 2014 年 1 月 11 日に第 22 期・第 4 回分科会を開催した。主要な報告・議事は以下のとおりである。

・平成 24 年度の活動報告。

(1) 第 1 回国際層序学会議（リスボン）へ奥村晃史派遣。

(2) IUGS 分科会から国際層序委員会第四紀サブ

コミッション voting member に齋藤文紀を推薦。
(3) 2015 年 INQUA 大会に向け養老川セクションを中部更新統基底 GSPP (国際協会模式層断面と断面上のポイント) 候補として提案準備の進行状況。

- ・2015 年第 19 回 INQUA 名古屋大会の準備状況報告。セッション公募開始。
- ・INQUA 執行委員会 (2014 年 2 月開催:ローマ) 対応について
- ・今後の INQUA 分科会 (22 期) の活動について。第四紀学会 2014 年大会支援。
- 3) 2014 年 8 月 11 日に第 22 期・第 5 回分科会を開催した。主要な報告・議事は以下のとおりである。
- ・INQUA 執行委員会 (Rome, 2014 年 2 月 17 日～20 日) 報告
- ・2015 年第 19 回 INQUA 名古屋大会の準備状況報告:
 - (1) 論文投稿・登録システム最終段階。
 - (2) 公募による 132 セッションを一部統合。
- ・代表派遣: QuickLake H2014 (湖水と人類の相互作用に関する国際ワークショップ)、アンカラ・コンヤ (トルコ)、2014 年 9 月: 奥村晃史
- ・22 期総括および、23 期への申し送りを検討。

22 期第 4 回日本学術会議地球惑星科学委員会 INQUA 分科会議事録

平成 26 年 1 月 11 日 (土) 15:00 ~ 17:10
首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス C
会議室
出席: 奥村晃史 (委員長)、齋藤文紀 (副委員長)、
海津正倫、小口 高、北里 洋、春山成子、
渡邊真紀子 (幹事、記録)
オブザーバー: 遠藤邦彦、町田 洋、吾妻 崇
欠席: 熊木洋太、佐竹健治、鈴木康弘、佃榮吉、
安成哲三

議題

1. 前回議事録の確認

資料 1 を確認し、議事録とすることが承認された。

2. 平成 24 年の活動報告について。

- ・代表派遣は希望者がなかったため奥村委員長に一任した。第一回国際層序学会議 (リスボン) に採択されたことが報告された。
- ・地球惑星科学委員会での報告内容を資料 2 にもとづいて、報告がなされた。日本学術会議の国際分担金予算が減らされてきている。INQUA は 1608000 円である。
- ・資料 3、3-4-1 にもとづいて、IUGS - ICS への委員推薦および GSPP 候補とし養老川セクションを提案する要件として国際誌 (QI 特集号) への英語論文の執筆案に関して齋藤副委員長、北里委員から説明がなされた。
- ・資料 4 にもとづいて、代表派遣会議 (第一回国際層序学会議) について、奥村委員長から報告がなされた。

3. INQUA 名古屋大会の準備状況について

- ・資料 5B にもとづいて、準備状況について齋藤副委員長から説明がなされた。27 年度日本学術会議共同主催国際会議申請が採択された (申請金額約 600 万円)。第四紀通信に INQUA 募金のお願いの記事を掲載した。セッション提案公募の締切は 2014 年 3 月 31 日まで、ポスター・口頭発表申し込み締め切りは 2014 年 12 月 20 日になった。公募情報の公開時期については情報交換がなされた。Quaternary International 日本特集号を刊行することになった。1 月末までに投稿希望者を募り、7 月に原稿締切、INQUA 名古屋大会までにオンラインで公表できるようにする。日本第四紀学会 (東大柏キャンパス) は INQUA の一年前であることから INQUA 関連のセッションを設けてできるだけ参加者を増やすこと、特別セッションを設けること、などの提案があった。
- ・関連学会への共催 (協賛) に関して、INQUA をよく知らない学協会への呼びかけ方について、委員より質問があり、齋藤副委員長が INQUA へ確認をすることになった。
- ・プレナリー・セッションの組み立て方、名古屋市民向けのイベント開催、参加者数の見込について委員から質問があった。これに対して、齋藤副委員長より以下の説明がなされた。LOC で公募はしないで、INQUA の執行部で決定する。日本側の候補者案を作成し、2 月開催予定の INQUA 執行委員会に提案する。名古屋市で市民向けの展示等のイベントを準備している。これまでの参加者数の実績は 700 人以上である。要旨は QI から要旨集が電子的に出される。システム運用を検討中である。
- ・公的予算、寄付金などに関して、IGU 京都会議を担当した委員より情報提供がなされた。

4. INQUA 執行委員会 (2014 年 2 月開催:ローマ) 対応について

- ・資料 6 にもとづいて、前回 (2013 年 3 月開催) の執行委員会での Anthropocene 議論ほかについて、奥村委員長より説明がなされた。QI の収入が増大しているため、INQUA から 10 万ユーロ程度 (1400 万円) のファンド提供が可能。若手研究者 100 名程度に会議参加支援ができる。日本枠公募もあるので、手続きについて、執行委員会で確認することになった。INQUA プロジェクト提案の情報を至急国内向け ML に流すことになった。メダルに関して、Shackleton Medal は要件を満たす候補者がなかったため再度選考される、Liu Tungshen Medal 候補者情報など。奥村委員長が INQUA 会議準備報告を予定。
- ・ICSU 関連で、Future Earth に関する情報提供と意見交換がなされた。
- ・Sustainable Deltas 2015 が認められた。デルタセッションを名古屋で立ち上げる予定である (齋藤副委員長)。
- ・2016 年 Goldschmidt、地学オリンピック開催に関する情報提供がなされた。

・PAGES meeting, ECR Early career Researchers、の活動に関して、若手研究者をどのように育てていくか名古屋大会のファンドとも関連している。日本で ECR meeting の開催をしていきたい（奥村委員長）。

5. 今後の INQUA 分科会（22 期）の活動について
シンポジウムの開催について具体的な案があれば検討していく。第四紀学会 2014 年大会（2014 年 9 月 5～9 日、東京大学柏キャンパス）で INQUA に先行するセッションを開催することが検討されている。このほかの企画について、意見交換がなされた。

提言の作成に関連して、INQUA 分科会は国際対応の性格から提言を出す予定はないなどの意見交換がなされた。9 月の第四紀学会のシンポジウムに関連して共催の可能性、ブースの設置などの案が出された。日本地理学会予算では前年の春季大会で IGU 会長、副会長を招聘し、シンポジウムを開催してもらった経緯がある。招聘者としてアラン・シーバス氏などの候補者名があがった。国内行事の中でできるだけ INQUA を紹介する活動を進めていくことになった。提案は随時受け付けていく。方針について確認した。

6. 代表派遣について

2014 年 9 月 開催 の QuickLakeH2014 International Workshop on Lakes and Human Interactions（奥村委員長）への派遣を 2014 年 1 月に申請したことが承認された。

7. その他

(1) 2013 年 IGU 京都会議について

大会委員長の春山成子委員から報告がなされた。参加者数は予想を上回り合計 1200 名（うち国内からの参加者数 550 名）であった。4 日間の会議を無事終了することができた。御礼申し上げる。未参加の発表は少なかった。アジア、若手のファンドを出した。学生用ポスター表彰に取り組んだ。パブリケーション、IYP に関連するメンバーを積極的に招致した。余剰金は寄付した学協会に返済した。IGU ポーランド地域会議の日本ブースを出すので、INQUA 名古屋大会の関係資料を置くことは可能。そのための要員は派遣してほしい。

(2) 会員・連携会員の推薦について

資料 7 にもとづいて、会員・連携会員の推薦に関して意見交換がなされた。女性、九州、四国、地方からの候補者が望ましいなどの意見が出された。

以上

22 期第 5 回日本学術会議地球惑星科学委員会
INQUA 分科会議事録

平成 26 年 8 月 11 日（月）10:00～12:00

学術会議 5C 会議室

出席：奥村（委員長）、斎藤（副委員長）、佐竹、

春山、佃、海津（記録）、

欠席：渡辺、小口、北里、熊木、鈴木、安成

オブザーバー：太田陽子

議題

1. 前回議事録の確認

奥村委員長から若干の補足説明があり、承認された。

2. INQUA 執行委員会報告

奥村委員長より資料にもとづいて説明がおこなわれた。

- ・The Anthropocene 推進にどのように対応するかについて注目しておくこと、Holocene の細分についても来年の重要なテーマとなるなどのことが指摘された。

- ・次のインターコンGRESSについては特に注目すべき提案はない。

- ・層序区分について SACCOCOM が独自に議論するのではなく、IUGS の ISC コミッションと連合して新たな委員会で検討するという提案があるが、まだ結論は出ていない。Holocene の細分についても議論あり。

- ・拠出金の新たな枠組みについて Treasure から通告された。（基本的には各国の GDP に従っていて、日本は年 160 万円を拠出しており、変更はない。）現状において INQUA の財政的状況は良好である。

- ・拠出金に関して Developing country の定義はまだ決まっていない。

- ・Project Reports と application の検討がおこなわれ、承認された。（INQUA project 2014 として日本からは 1405 Ono et al のプロジェクトが採択された。）

- ・Quaternary International の editor 交代が予定されている。

- ・Nagoya 大会の準備については良くおこなわれているとの評価がなされた。

- ・2019 年立候補国としてイタリア・スペイン・ギリシャ・アイルランドが挙げられている。

- ・Executive（執行委員）の nomination の deadline は 3 月末に定まられており、日本から Executive を出すのであれば、今から準備する必要あり。また、名誉会員の推薦も忘れずにおこなう必要あり。

- ・INQUA が Future Earth にどのようにかかわるかははっきりしない。

- ・次回の Executive meeting がケープタウンでおこなわれるので、それに向けて名古屋大会の準備を進める必要がある。

- ・Shackleton メダル（35 才以下若手）の推薦を考えてほしい。

3. 2015 名古屋大会の準備状況

Quaternary International の特集号を準備中である。

登録等のシステムと巡検関係を JTB 関連の 2 社に依頼している。

セッションについては、132 件の提案があり、そのうち 1 件がリジェクト、109 件は提案そのまま、21 件は統合されることとなった。

開催協力依頼についての報告が＜別紙 1＞にもとづいておこなわれた。

食事関係について＜資料＞にもとづいて説明

された。バンケットは名古屋市内の浩養園でおこなう。

参加者は増える傾向があり、1500 人に達するのではないかとこの予想がある。

巡検は Pre :3 件、日帰り :14 件、Post :15 件が予定されている。

アブストラクト締切は 12 月 20 日である。

4. 22 期活動の総括

INQUA 日本開催に精力を注いで活動した。

報告に関しては <資料 5> を提出した (事後承認)。

5. 23 期への申し送り

佃委員より日本で第四紀学を推進することの意義 (Island Arc、変動帯、人口集中地域、防災等)

を強調する必要があるとの指摘があった。

地球惑星分野がいくつにも分かれていることをふまえて、各分野との連携を検討することも必要であろう (佐竹委員)。

若い良い研究者をどのように育てるかを考える必要あり (佃委員)。

東南アジアなどに対するリーダーシップをとるように努力することが望まれる (春山委員)。

アジアのインターコンGRESSがすでに 3 回開催されていて次回は韓国で予定されている (斎藤副委員長)。

9 月の日本第四紀学会では来年の INQUA に向けたシンポジウムを予定している。

◆ 2014 年度第 1 回評議員会議事録

日時：2014 年 9 月 6 日 (土) 18:00 ~ 20:00

場所：東京大学大気海洋研究所 2 階会議室 (219 号室)

出席 小野会長、吾妻、阿部、池田、海津、卜部、河村、北村、久保、工藤、小荒井、小池、斎藤、白井、須貝、鈴木、高原、竹村、辻、陶野、中村、藤原、水野、山崎、横山、吉永

幹事：斎藤めぐみ、米田

欠席 出穂、植木、岡崎、奥村、佐藤、里口、澤井、長橋、八戸、松浦、松下、三田村、宮内、本川、渡邊

幹事：小森

オブザーバー：中島 礼 (選挙制度検討委員会委員長)

水野清秀幹事長の司会で、小野会長のあいさつの後、須貝俊彦評議員を議長に選出した。定足数確認 (出席者 26 名、委任状 14 通) 後、配布資料に基づき、下記の報告・審議が行われた。

報告事項

1. 2013 年度事業が報告された。事業内容は第四紀通信に掲載されているので割愛。
2. 2013 年度決算報告があった (資料 1、2)。
3. 2013 年度会計監査報告があった (資料 3)。

審議事項

1. 2014 年度事業計画案 (2014 年 8 月 1 日 ~ 2015 年 7 月 31 日) を審議し、これを承認した。

1-1 庶務

- 1) 総会・評議員会・幹事会を開催する。
- 2) 入会、退会者の確認を行うとともに、会員名簿の管理を行う。
- 3) 学会賞・学術賞受賞者選考および論文賞・奨励賞受賞者選考に関する業務を行う。
- 4) 選挙管理委員会を組織し、2015 ~ 2016 年度役員選挙を実施する。
- 5) 会員サービス向上検討委員会、選挙制度検討委員会の答申を受け、特別委員会を設置して、幹事会・評議員会などの運営体制、選挙制度の見直し並びにそれらに伴う規約の改正などについて検討を行う。

- 6) 転載許可・受け入れ図書の整理を行う。
- 7) 学会・シンポジウム等の共催・後援に関連する業務を行う。
- 8) 日本学術振興会賞などの賞への学会推薦を行う。
- 9) その他学会活動に関する庶務業務を行う。

1-2 会計

- 1) 会計に関する承認業務を行う。
- 2) 2013 年度の決算を報告する。2014 年度の予算を提案する。
- 3) 会計監査を受ける。
- 4) 研究委員会の年度計画をとりまとめる。

1-3 行事・企画

- 1) 2014 年 9 月 5 日 ~ 9 日に東京大学柏キャンパスを会場として、日本第四紀学会 2014 年大会を実施する。
- 2) 学会賞・学術賞受賞者講演会を実施する。
- 3) 日本第四紀学会 2015 年大会を 2015 年 8 月に早稲田大学で開催する予定で、関係者で検討し、その準備を行う。また、2016 年大会の準備を行う。
- 4) 2015 年 7 月までの期間に実施する講習会またはアウトリーチ巡検などの企画を検討する。
- 5) 日本ジオパーク委員会活動の補佐を強化するため、新たに特別委員会をつくり、関連した活動を行う (2015 年 1 月頃提案予定)。

1-4 編集

- 1) 「第四紀研究」第 53 巻 5 号、6 号、第 54 巻 1 号、2 号、3 号、4 号を編集し、定期刊行する。また、J-STAGE を通じて、電子ジャーナルとしての刊行を行う。
- 2) 2014 年大会特集号編集委員会を設置し、編集などにあたる。
- 3) 「第四紀研究」編集・出版に関わる諸課題を整理し、順次その検討・見直しを進め、可能なものから改善を実施する。

1-5 広報

- 1) 広報委員会を組織して、第四紀通信の編集お

- よびホームページの維持管理を行う。
- 2) 「第四紀通信」第 21 巻 5 号、6 号、第 22 巻 1 号、2 号、3 号、4 号を編集し、発行する。
 - 3) 「第四紀通信」上記各号の電子版 (pdf 版) を、それぞれ発行前月の中旬に日本第四紀学会ホームページに掲載する。各ファイルを保存し、アーカイブ化を継続する。
 - 4) 日本第四紀学会ホームページを通じて広報、情報提供、アウトリーチ活動等を行う。
 - 5) 日本第四紀学会会員メーリングリストを通じて各種情報提供等を行う。
 - 6) 日本第四紀学会評議員会メーリングリストおよび日本第四紀学会幹事会メーリングリストの管理を行う。
 - 7) 2015 年 INQUA 名古屋大会のホームページと連携して日本第四紀学会ホームページ英語版の充実を図る。
 - 8) 外部への広報活動強化のため、第四紀学及び第四紀学会の活動を紹介するパンフレットを作成する。

1-6 渉外

日本地球惑星科学連合をはじめ、自然史学会連合等国内関連学協会との連携を高めていく。とくに地球惑星科学連合における日本第四紀学会の認知度と活動度を高めるために、連合大会セッションについて、『ヒト・環境系の時系列ダイナミクス』と、『活断層と古地震』ならびに『平野地質—第四紀層序と地質構造—』を第四紀学会が開催し、第四紀学会員の発表の場を用意するとともに、ジオパークをはじめ第四紀学に関連するセッションとの連携・共催を積極的にすすめる。

1-7 国際第四紀学連合第 19 回大会

国際第四紀学連合第 19 回大会組織委員会を中心に、2015 年 7 月 27 日～8 月 2 日に名古屋で開催予定の第 19 回 INQUA 大会の準備を進める。

2. 2014 年度予算案を審議し、これを承認した (資料 4)。

3. 会員の入退会に関わる会則改訂

会員の入退会に関わる会則改訂案を審議し、総会に諮ることとした。なお、入会申し込みの宛先については幹事会で検討することとした。下線が改正箇所。

第 2 章 会員

第 6 条

前文略

2. 会員になろうとするものは、本会会則および倫理憲章に同意の上、入会申込書を会長宛に提出し、会長の承認を得なければならない。また、本会を退会しようとする会員は、会長宛に退会届を提出し、任意に退会することができる。この場合未納会費があるときはこれを全納しなければならない。

3. 1 年以上、会費を滞納した会員は、評議員会の

議をへて、除籍されることがある。

4. 不正行為等を行った会員に対し、会長は法務委員会の議に従い、除名できる。また、会員は不正行為等があったとする申し立てを行うことができる。なお、これらの細則は別に定める。

4. 日本第四紀学会 法務委員会規定の改定

会員入退会の会則変更に伴う日本第四紀学会法務委員会規定の改定案を審議し、これを承認した。

日本第四紀学会 法務委員会規定

(目的)

第 1 条 本規定は、日本第四紀学会会則第 6 条 4、第 14 条の 1 に基づき、会員による研究結果の捏造・改ざん・盗用、研究費の不正使用等の不正行為等に適切に対処するための組織、申し立て及び除名等に関する手続き及び権限等について規定するものである。なお、不正行為等の判断は、日本第四紀学会倫理憲章のほか日本学術会議による「科学者の行動規範」を基準とする。

4 不正行為等を行った会員への措置は、程度や役職に応じて次のとおりとする。除名、期間を定めた会員資格の停止、役員の解任、期間を定めた役員資格の停止、そのほか不正行為排除のために必要な措置。

附則 2 本規定は 2014 年 9 月 6 日より施行する。

5. 学会賞規定改訂

若手・学生発表賞を追加した学会賞規定の改訂案を審議し、これを承認した。変更箇所は下線で記す。

日本第四紀学会 学会賞規定

前文略

(2014 年 9 月 6 日、評議員会にて一部改正)

前文略

[賞の名称]

第 2 条 本学会に、日本第四紀学会賞、日本第四紀学会学術賞、日本第四紀学会功労賞、日本第四紀学会論文賞及び、日本第四紀学会若手・学生発表賞 (以下「学会賞」、「学術賞」、「功労賞」、「論文賞」及び、「奨励賞」及び「若手・学生発表賞」と略称する) を設ける。

[授賞の対象]

第 3 条 学会賞は、第四紀学の発展に貢献した顕著な業績や活動、及び学会活動に貢献した正会員に授与し、学会における最高の賞とする。学術賞は、第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与する。功労賞は、第四紀学の発展や学会活動に貢献した個人や団体、組織に授与する。論文賞及び奨励賞は、会誌「第四紀研究」に掲載さ

れた第四紀学の発展や進歩に貢献する優れた論文を発表した会員である著者に授与する。奨励賞は若手研究者の育成と研究奨励に寄与することを目的とする。若手・学生発表賞は若手研究者・学生会員の育成と研究奨励に寄与することを目的とし、大会で優秀な発表を行った会員に授与する。

[受賞者の選考]

前文略

(若手・学生発表賞)

第13条 若手・学生発表賞を選考するため、若手・学生発表賞選考委員会をおく。

[受賞者の決定]

第14条 評議員会は、学会賞選考委員会、幹事会及び論文賞選考委員会から推薦された受賞候補者をもとに、受賞者を決定する。若手・学生発表賞は若手・学生発表賞選考委員会が受賞者を決定する。

[選考結果の報告]

第15条 学会賞選考委員長、幹事長及び論文賞選考委員長は、評議員会の結果を踏まえて受賞者の選考経過と結果を総会に報告する。若手・学生発表賞選考委員長は結果を会長に報告する。

[授賞式]

第16条 若手・学生発表賞を除く授賞式は総会にあわせて行い、学会賞、学術賞、功労賞及び論文賞受賞者へは賞状を、奨励賞受賞者へは賞状及び副賞〈賞金〉を授与する。若手・学生発表賞の受賞者には大会中または後に賞状を授与する。

[その他]

第17条 本規定に定めるもののほか、学会賞に係る必要事項は内規として評議員会が別に定める。

[規定の変更]

第18条 本規定の変更には評議員会の承認を必要とする。

[規定の施行]

第19条 本規定は2014年9月9日から施行する。

付則1

2011年大会の発表賞、2012年と2013年大会の若手・学生発表賞、2014年大会の若手発表賞は、本規定の「若手・学生発表賞」に相当する賞と見なす。

6. 日本第四紀学会若手・学生発表賞選考に関する内規

日本第四紀学会若手・学生発表賞を定めたことに付随する内規案を審議し、これを承認した。

(2014年9月6日、評議員会にて決定)

日本第四紀学会若手・学生発表賞選考に関する内規

1 賞は筆頭著者である39歳(大会開催年の8月1日時点)以下または学生の正会員に授与する。
2 賞の部門は口頭若手部門、口頭学生部門、ポスター若手部門、ポスター学生部門とする。
3 一人あたりの受賞は上記の全部門を通じて、原則として、合計3回までとする。
4 上記の全部門を通じて、エントリーは大会ごとに1件までとする。
5 審査は若手・学生発表賞選考委員会が行う。審査委員は6名以上とし、会長が大会毎に委員を委嘱する。委員は、審査対象の発表の著者ではない者の中から、専門分野等を配慮して選ぶ。
6 本規定の変更には評議員会の承認を必要とする。
7 この規定は2014年9月9日から施行する。

7. 評議員会・総会における欠席者の委任等に関する内規案

評議員会・総会における欠席者の委任等に関する内規案を審議し、これを承認した。

(2014年9月6日、評議員会にて決定)

評議員会・総会における欠席者の委任等に関する内規

委任状の数は、会合の開催までに提出された全ての委任状の数を出席者数に含めるものとする。

8. 名誉会員の候補者の推薦文

名誉会員候補者の推薦文を審議し、これを承認した。

9. 名誉会員決定に伴う評議員補充(報告)

評議員が名誉会員に決定されたことに伴う評議員の欠員の補充について審議した。

10. 逝去会員の功労賞受賞について

2014年6月7日の2013年度第3回評議員会において決定した功労賞受賞者のうち、赤木三郎会員は、2014年2月5日に既にご逝去されていたことが後日判明した。赤木三郎会員の功労賞受賞について審議し、第3回評議員会の決定の通りとすることとした。

11. 組織改革委員会(仮)の設置

選挙制度検討委員会と会員サービス向上検討委員会からの答申を検討し、(1)選挙改革と評議員の体制の改革を最優先とすること、(2)実施するための特別委員会として「組織改革委員会(仮)」（会長、副会長、幹事、そのほかの会員から構成され、5名程度とする）を設置することとした。

資料1

日本第四紀学会				2013年度収支決算報告書 (2013年8月1日～2014年7月31日)			
収入の部				(単位：円)			
科 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	決算②-予算①	摘 要			
会費収入	10,820,000	11,556,978	736,978				
正会員会費収入	10,560,000	11,276,978	716,978	通常会員会費 10,878,000円 学生会員会費 310,000円 海外会員会費 88,978円			
賛助会員会費収入	260,000	280,000	20,000	20,000円×11社(14口)			
誌代	1,800,000	1,372,877	-427,123	要旨集売上(240,000円)、定期雑誌購入、Back No			
別刷代・超過頁代収入	400,000	772,299	372,299	52巻4号～53巻3号別刷代			
雑収入	700,000	1,693,745	993,745	2013年大会余剰金(271,245円)、IGU寄付金(1,134,000円)等			
利子収入	5,000	3,030	-1,970	普通預金利息			
広告料収入	0	0	0				
役員選挙積立金取崩収入	0	0	0				
INQUA対策積立金取崩収入	0	0	0				
名簿作成積立金取崩収入	0	0	0				
予備費積立金取崩収入	0	0	0				
収入合計	13,725,000	15,398,929	1,673,929				
前期繰越金	10,571,965	10,571,965	0				
合計	24,296,965	25,970,894	1,673,929				
支出の部				(単位：円)			
科 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	決算②-予算①	摘 要			
会誌発行費	6,000,000	5,147,051	-852,949				
印刷費	3,000,000	2,956,443	-43,557	第四紀研究 52巻4号～53巻1号 各1,600部 53巻2号・3号 各1,500部			
編集費	1,500,000	730,630	-769,370				
編集人件費	1,200,000	1,200,000	0	編集書記手当			
別刷印刷費	300,000	259,978	-40,022	第四紀研究 52巻4号～53巻3号			
会誌・会報発送費	700,000	599,699	-100,301	第四紀研究 52巻4号～53巻3号			
会報発行費	810,000	746,798	-63,202				
印刷費	600,000	547,776	-52,224	第四紀通信 20巻4号～21巻1号 各1,500部 21巻2号・3号 各1,400部			
編集費	10,000	5,622	-4,378	第四紀通信編集費			
編集人件費	200,000	193,400	-6,600	第四紀通信編集アルバイト代			
大会運営準備金	400,000	400,000	0				
巡検準備金	100,000	100,000	0				
講演会・シンポジウム費	100,000	36,000	-64,000				
予稿集印刷費	300,000	214,200	-85,800	2013年大会講演要旨集(本400部)			
学会賞等顕彰費	150,000	150,725	725	副賞2名(100,000円)、賞状作成費			
講習会費	50,000	0	-50,000				
通信費	300,000	289,696	-10,304	会費請求書発送郵税、事務通信費等			
会議費	100,000	0	-100,000				
旅費・交通費	500,000	357,142	-142,858	幹事会・委員会等交通費			
印刷費	350,000	310,825	-39,175	学会専用封筒、コピー代			
業務委託費	2,267,160	2,223,042	-44,118	事務委託費概算払分			
デジタルブック最新第四紀学CD出版費	550,000	582,750	32,750	デジタルブック製作費(700枚)543,900円			
INQUA対策費	0	0	0				
役員選挙費	0	0	0				
名簿作成費	0	0	0				
INQUA対策積立金繰入支出	0	0	0				
役員選挙費積立金繰入支出	350,000	350,000	0				
名簿作成積立金繰入支出	300,000	300,000	0				
予備費積立金繰入支出	500,000	1,500,000	1,000,000				
研究委員会助成金支出	200,000	69,700	-130,300				
加盟学協会分担金支出	30,000	30,000	0	地球惑星科学連合、自然史学会連合分担金			
国際科学技術コンテスト協賛金支出	100,000	100,000	0	国際地学オリンピック協賛金			
雑費	100,000	262,064	162,064	会報編集書記パソコン代(139,860円)、振込手数料等			
予備費	200,000	0	-200,000				
支出合計	14,457,160	13,769,692	-687,468				
次期繰越金	9,839,805	12,201,202	2,361,397				
合計	24,296,965	25,970,894	1,673,929				

資料2

貸借対照表および財産目録				
貸借対照表				
(2014年7月31日現在)				
(単位：円)				
借方		貸方		
科目	金額	科目	金額	
流動資産	17,374,202	流動負債	3,723,000	
郵便振替	10,216,906	前受会費	3,723,000	
普通預金	5,359,674			
未収金	30,000			
小口現金	1,748,765	正味財産	23,651,202	
現金(事務局)	18,857	名簿作成積立金	600,000	
		INQUA対策積立金	0	
		役員選挙費積立金	350,000	
		予備費積立金	10,500,000	
固定資産	10,000,000	次期繰越金	12,201,202	
定期預金	10,000,000	(前期繰越金)	10,571,965	
		(当期収支差額)	1,629,237	
合計	27,374,202	合計	27,374,202	
財産目録				
(2014年7月31日現在)				
(単位：円)				
資産の部	摘要			金額
郵便振替	年会費振込専用口座			10,216,906
普通預金	みずほ銀行早稲田支店			5,158,735
普通預金	三井住友信託銀行本店営業部			200,939
未収金	広告料(2007年)			30,000
小口現金	編集書記手許金			1,748,765
現金	事務局手許金			18,857
流動資産合計				17,374,202
定期預金	三井住友信託銀行本店営業部			10,000,000
固定資産合計				10,000,000
合計				27,374,202
負債の部				
(単位：円)				
科目	摘要			金額
前受会費	2014年度以降年会費			3,723,000
合計				3,723,000
正味財産の部				
(単位：円)				
科目	摘要			金額
名簿作成積立金	名簿作成積立金			600,000
INQUA対策積立金	INQUA対策積立金			0
役員選挙費積立金	役員選挙費積立金			350,000
予備費積立金	予備費積立金			10,500,000
次期繰越金				12,201,202
	前期繰越金			10,571,965
	当期収支差額			1,629,237
合計				23,651,202

資料3

日本第四紀学会

会長 小野 昭 殿


2013年度会計監査報告書


2014年8月5日(火)、(株)春恒社 会議室において日本第四紀学会
2013年度収支決算報告書(2013年8月1日～2014年7月31日)の監
査を行い、予算の執行、帳簿、証票の整理等、正常適正に処理されてい
ることを確認いたしました。

ここにご報告いたします。

以上

2014年8月5日(火)

会計監査 竹村 恵 = 

会計監査 久保 純子 

資料4

日本第四紀学会				
2014年度予算案				
(2014年8月1日から2015年7月31日まで)				
収入の部				(単位:円)
科 目	予 算 額 ①	7月31日現在②	2014年度予算案	摘 要
会費収入	10,820,000	11,556,978	10,780,000	
正会員会費収入	10,560,000	11,276,978	10,500,000	
賛助会員会費収入	260,000	280,000	280,000	20,000円×11社(14口)
誌代	1,800,000	1,372,877	1,800,000	要旨集売上、定期雑誌購入、Back No
別刷代・超過頁代収入	400,000	772,299	500,000	53巻4号～54巻3号別刷代
雑収入	700,000	1,693,745	700,000	JST、著作権料収入、デジタルブック収入等
利子収入	5,000	3,030	5,000	普通預金利息
広告料収入	0	0	0	
役員選挙積立金取崩収入	0	0	350,000	
INQUA対策積立金取崩収入	0	0	0	
名簿作成積立金取崩収入	0	0	0	
予備費積立金取崩収入	0	0	3,000,000	
収入合計	13,725,000	15,398,929	17,135,000	
前期繰越金	10,571,965	10,571,965	12,201,202	
合計	24,296,965	25,970,894	29,336,202	
支出の部				(単位:円)
科 目	予 算 額 ①	7月31日現在②	2014年度予算案	摘 要
会誌発行費	6,000,000	5,147,051	6,000,000	
印刷費	3,000,000	2,956,443	3,000,000	第四紀研究 53巻4号～54巻3号 各1,500部
編集費	1,500,000	730,630	1,500,000	
編集人件費	1,200,000	1,200,000	1,200,000	
別刷印刷費	300,000	259,978	300,000	第四紀研究 53巻4号～54巻3号
会誌・会報発送費	700,000	599,699	700,000	第四紀研究 53巻4号～54巻3号
会報発行費	810,000	746,798	850,000	
印刷費	600,000	547,776	600,000	第四紀通信 21巻4号～22巻3号 各1,400部
編集費	10,000	5,622	50,000	第四紀通信編集費、編集ソフト契約代
編集人件費	200,000	193,400	200,000	第四紀通信編集アルバイト代
大会運営準備金	400,000	400,000	300,000	
巡検準備金	100,000	100,000	0	
講演会・シンポジウム費	100,000	36,000	100,000	
予稿集印刷費	300,000	214,200	300,000	2014年大会講演要旨集
学会賞等顕彰費	150,000	150,725	200,000	副賞1名(50,000円)、賞状作成費
講習会費	50,000	0	50,000	
通信費	300,000	289,696	300,000	会費請求書発送郵税、事務通信費等
会議費	100,000	0	100,000	
旅費・交通費	500,000	357,142	500,000	幹事会・委員会等交通費
印刷費	350,000	310,825	450,000	学会専用封筒、総会資料印刷、コピー代
業務委託費	2,267,160	2,223,042	2,300,000	
デジタルブック最新第四紀学CD出版費	550,000	582,750	0	
INQUA第19回大会準備費	0	0	3,000,000	
INQUA対策費	0	0	0	
役員選挙費	0	0	700,000	
名簿作成費	0	0	0	
INQUA対策積立金繰入支出	0	0	0	
役員選挙費積立金繰入支出	350,000	350,000	0	
名簿作成積立金繰入支出	300,000	300,000	300,000	
予備費積立金繰入支出	500,000	1,500,000	0	
研究委員会助成金支出	200,000	69,700	200,000	
加盟学協会分担金支出	30,000	30,000	30,000	地球惑星科学連合、自然史学会連合分担金
国際科学技術コンテスト協賛金支出	100,000	100,000	100,000	国際地学オリンピック協賛金
雑費	100,000	262,064	350,000	会誌編集書記パソコン購入費、振込手数料等
予備費	200,000	0	200,000	
支出合計	14,457,160	13,769,692	17,030,000	
次期繰越金	9,839,805	12,201,202	12,306,202	
合計	24,296,965	25,970,894	29,336,202	

◆日本第四紀学会 2013年度第6回幹事会議事録

日時：2014年8月16日（土） 10:00～18:00
場所：東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター内 広島大学東京オフィス 408号室
出席：小野会長、吾妻、奥村、北村、斎藤文紀、斎藤めぐみ、藤原、水野
欠席：出穂、卜部、岡崎、小森、佐藤、宮内、米田

審議事項

1. 会員の入退会に関する会則改正について、以下の改正案を審議し、次回評議員会に諮ることとした。赤字・下線が改正箇所。

現行

第2章 会員

第6条

前文略

2. 会員になろうとするものは、本会会則および倫理憲章に同意の上、入会申込書を会長宛に提出しなければならない。また、本会を退会しようとする会員は、会長宛に退会届を提出することとする。

3. 1年以上、会費を滞納した会員は、評議員会の議をへて、除籍されることがある。

4. 会員が不正行為等を行った場合には、法務委員会の議により除名あるいは会員の資格停止等の処分を受けることがある。また、会員は不正行為等があったとする申し立てを行うことができる。なお、これらの細則は別に定める。

改正案

第2章 会員

第6条

前文略

2. 会員になろうとするものは、本会会則および倫理憲章に同意の上、入会申込書を会長宛に提出し、会長の承認を得なければならない。また、本会を退会しようとする会員は、会長宛に退会届を提出し、任意に退会することができる。この場合未納会費があるときはこれを全納しなければならない。

3. 1年以上、会費を滞納した会員は、評議員会の議をへて、除籍されることがある。

4. 不正行為等を行った会員に対し、会長は法務委員会の議に従い、除名できる。また、会員は不正行為等があったとする申し立てを行うことができる。なお、これらの細則は別に定める。

2. 日本第四紀学会 法務委員会規定に関する会則改正について、以下の改正案を審議し、次回評議員会に諮ることとした。赤字・下線が改正箇所。

(目的)

第1条 本規定は、日本第四紀学会会則第6条4、第14条の1に基づき、会員による研究結果の捏造・改ざん・盗用、研究費の不正使用等の不正行為等に適切に対処するための組織、申し立て及び除名等に関する手続き及び権限等について規定するものである。なお、不正行為等の判断は、日本第四

紀学会倫理憲章のほか日本学術会議による「科学者の行動規範」を基準とする。

4 不正行為等を行った会員への措置は、程度や役職に応じて次のとおりとする。除名、期間を定めた会員資格の停止、役員の解任、期間を定めた役員資格の停止、そのほか不正行為排除のために必要な措置。

附則2 本規定は 2014年9月9日より施行する。

3. 日本第四紀学会若手・学生発表賞の学会の正式な顕彰への認定に関わる規定の改正について、以下の改正案を審議し、次回評議員会に諮ることとした。赤字・下線が改正箇所。

日本第四紀学会 学会賞規定

(1994年8月26日,評議員会・8月27日,総会にて決定)

(1997年8月6日,総会にて一部改正)

(2006年8月4日,評議員会にて一部改正)

(2007年2月3日,評議員会にて一部改正)

(2008年8月22日,評議員会にて一部改正)

(2010年8月20日,評議員会にて一部改正)

(2012年8月20日,評議員会にて一部改正)

(2014年9月6日,評議員会にて一部改正)

[目的]

第1条 本規定は日本第四紀学会会則第3条3項に基づき、第四紀学の発展に貢献する優れた業績をあげた会員等の表彰に係わる事項を定める。

[賞の名称]

第2条 本学会に、日本第四紀学会賞、日本第四紀学会学術賞、日本第四紀学会功労賞、日本第四紀学会論文賞及び、日本第四紀学会奨励賞及び日本第四紀学会若手・学生発表賞（以下「学会賞」、「学術賞」、「功労賞」、「論文賞」及び「奨励賞」及び「若手・学生発表賞」と略称する）を設ける。

[授賞の対象]

第3条 学会賞は、第四紀学の発展に貢献した顕著な業績や活動、及び学会活動に貢献した正会員に授与し、学会における最高の賞とする。学術賞は、第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与する。功労賞は、第四紀学の発展や学会活動に貢献した個人や団体、組織に授与する。論文賞及び奨励賞は、会誌「第四紀研究」に掲載された第四紀学の発展や進歩に貢献する優れた論文を発表した会員である著者に授与する。奨励賞は若手研究者の育成と研究奨励に寄与することを目的とする。若手・学生発表賞は若手研究者・学生会員の育成と研究奨励に寄与することを目的とし、

大会で優秀な発表を行った会員に授与する。

[受賞者の選考]

(学会賞と学術賞)

第4条 学会賞及び学術賞候補者を選考するため、学会賞受賞者選考委員会(以下「学会賞選考委員会」と略称する)をおく。

第5条 学会賞選考委員会は、評議員の投票により選出された評議員経験を有する5名の会員からなる学会賞選考委員で構成し、学会賞選考委員の互選により学会賞選考委員長をおく。学会賞選考委員の任期は1年とし、3期以上連続して就任できない。

第6条 本学会会員は、学会賞選考委員会に対して学会賞及び学術賞受賞候補者を推薦することができる。

第7条 学会賞選考委員会は毎年6月30日までに選考を終了し、受賞候補者を会長に答申する。学会賞選考委員会は必要に応じて参考人から意見を聴取することができる。

(功労賞)

第8条 功労賞の選考は、幹事会にて行い、評議員会に候補者を推薦する。

(論文賞と奨励賞)

第9条 論文賞及び奨励賞受賞候補者を選考するため、論文賞受賞者選考委員会(以下「論文賞選考委員会」と略称する)をおく。

第10条 論文賞選考委員会は、評議員の投票により選出された5名の会員からなる論文賞選考委員で構成し、論文賞選考委員の互選により論文賞選考委員長をおく。論文賞選考委員の任期は1年とし、連続して論文賞選考委員に就任することはできない。

第11条 本学会会員は、論文賞選考委員会に対して論文賞及び奨励賞受賞候補者を推薦することができる。

第12条 論文賞選考委員会は毎年6月30日までに選考を終了し、受賞候補者を会長に答申する。論文賞選考委員会は必要に応じて参考人から意見を聴取することができる。

(若手・学生発表賞)

第13条 若手・学生発表賞を選考するため、若手・学生発表賞選考委員会をおく。

[受賞者の決定]

第14条 評議員会は、学会賞選考委員会、幹事会及び論文賞選考委員会から推薦された受賞候補者をもとに、受賞者を決定する。若手・学生発表賞は若手・学生発表賞選考委員会が受賞者を決定する。

[選考結果の報告]

第15条 学会賞選考委員長、幹事長及び論文賞選考委員長は、評議員会の結果を踏まえて受賞者の選考経過と結果を総会に報告する。若手・学生発表賞選考委員長は結果を会長に報告する。

[授賞式]

第16条 若手・学生発表賞を除く授賞式は総会にあわせて行い、学会賞、学術賞、功労賞及び論文賞受賞者へは賞状を、奨励賞受賞者へは賞状及び副賞〈賞金〉を授与する。若手・学生発表賞の受賞者には大会中または後に賞状を授与する。

[その他]

第17条 本規定に定めるもののほか、学会賞に係わる必要事項は内規として評議員会が別に定める。

[規定の変更]

第18条 本規定の変更には評議員会の承認を必要とする。

[規定の施行]

第19条 本規定は2014年9月9日から施行する。

付則1

2011年大会の発表賞、2012・2013年大会の若手・学生発表賞、2014年大会の若手発表賞は、本規定の「若手・学生発表賞」に相当する賞と見なす。

4. 日本第四紀学会若手・学生発表賞選考に関する内規について、以下の内規案を審議し、次回評議員会に諮ることとした。

(2014年9月6日、評議員会にて決定)

日本第四紀学会若手・学生発表賞選考に関する内規

- 1 賞は学生もしくは39歳(大会開催年の8月1日時点)以下の筆頭著者の正会員に授与する。
- 2 賞の部門は口頭若手部門、口頭学生部門、ポスター若手部門、ポスター学生部門とする。
- 3 授与は上記の全部門を通じて、原則として、合計3回までとする。
- 4 上記の全部門を通じて、エントリーは大会ごとに1件までとする。
- 5 審査は若手・学生発表賞選考委員会が行う。審査委員は6名以上とし、会長が大会毎に委員を委嘱する。委員は、審査対象の発表の著者ではない者の中から、専門分野等を配慮して選ぶ。
- 6 本規定の変更には評議員会の承認を必要とする。
- 7 この規定は2014年9月9日から施行する。

5. 日本第四紀学会学会賞規定の付則1を踏まえて、過去の若手・学生発表賞の学会HPへの掲載に関して審議し、以下の受賞リストを掲載することとした。

2011年大会

口頭発表賞(若手:星野安治、井上麻夕里、学生:中村淳路、川久保友太)、ポスター発表賞(若手:

大石雅之、近藤玲介、学生：川久保友太、弦巻賢介)
2012年大会

若手・学生発表賞、口頭発表賞（一般セッション学生部門：石川 智、一般セッション若手部門：北場育子、テーマセッション学生部門：中村淳路、テーマセッション若手部門：石村大輔、オブラクタスティープン）、ポスター発表賞（学生部門：長谷川 航、安藤広一、若手部門：大石雅之、近藤玲介）

2013年大会

若手・学生発表賞、口頭発表賞（若手部門：大石雅之、学生部門：高橋智佳史、山田圭太郎）
ポスター発表賞（若手部門：近藤玲介、石村大輔、学生部門：三浦知督、植村杏太）

6. 日本第四紀学会若手・学生発表賞の結果の第四紀通信への掲載に関して審議し、受賞ポスターの写真を掲載することとした。

7. 評議員会・総会における欠席者の委任等に関する内規について、以下の内規案を審議し、次回評議員会に諮ることとした。

総会及び評議員会の欠席者の委任に関する内規

委任状の数は、委任先にかかわらず、会合の開催までに提出された全ての委任状の数を出席者数に含めるものとする。

8. Web上からの入会申込みの導入について審議し、本人確認ができないことから、導入しないこととした。

9. 選挙制度検討委員会と会員サービス向上検討委員会からの答申を検討し、(1) 選挙改革と評議員の体制の改革を最優先とすること、(2) 実施するための特別委員会として「組織改革委員会(仮)」(会長、副会長、幹事、そのほかの会員から構成され、5名程度とする)を設置することを、次回評議員会に諮ることとした。

10. 本学会でのジオパーク活動の今後について検討し、特別委員会としてジオパーク委員会を設置することを2014年第2回評議員会に諮ることとした。それまでの期間に情報収集を行うこととした。

11. 2014年大会の広報ポスターを作成することとし、北村会員が原案を作成することとした。

12. 総会での資料の提示方法について審議し、配布資料に加えて、パワーポイントを用いることと

した。

13. デジタルブック最新第四紀学の書評について検討し、関連学会に書評を依頼することとした。

報告事項

第四紀研究編集状況

- 53巻4号特集号(前半)特集論文3、講座1編を発行した。
- 53巻5号特集号(後半)特集論文2、通常論文3(論説1、短報、1、講座1)を掲載する予定である。
- 53巻6号に関しては、受理済み原稿1編(学会賞論文)、講座1である。
- 残りの手持ち原稿論説8編、短報3編で、この内、論説2編は査読者と著者間で意見の相違などがあり査読期間が長期化していることから、今後は編集幹事が対応する。
- 柏大会の特集号に関しては、大会実行委員長の了解を得た上で、以下の方針を進める。1) 編集幹事から各シンポジウムの世話人へ特集号作成の意思を確認する。立候補が無ければ、編集幹事から個別に打診する。対象となるシンポジウムが複数ある場合には、特集号を複数冊企画する。2) 特集号編集委員会はシンポジウムの世話人を中心に編成し、編集幹事2名がこれに加わることを基本とする。さらに、状況に応じて常設の編集委員会の委員にも適宜サポートに入ってもらう。
- 次回編集委員会は9月末に開催予定。

行事企画

- 2014年大会の審査委員の選出について、庶務が大会実行委員長に承諾願いをだすこととした。承諾後に、会長が審査委員に委嘱する。
- 一般講演の座長依頼を早急に行うこととした。
- 大会プログラムを早急に学会HPに掲載することとした。
- 8月25日に2014年大会実行委員会と幹事会が打ち合わせを行うこととした。

日本学術会議

- 国際第四紀学連合第19回大会を共同して主催する日本学術会議及び日本第四紀学会は、本国際会議開催のための準備及び運営に関して合意書を締結した。
- 第22期日本学術会議地球惑星科学委員会INQUA分科会報告があった。

次回幹事会

9月6日 12:30～13:30 東京大学大気海洋研究所 会議室「219」

◆日本第四紀学会 2014 年度第 1 回幹事会議事録

日時：2014 年 9 月 6 日（土）12:30～13:30
 場所：東京大学大気海洋研究所 2 階会議室 219 号室
 出席：小野会長、吾妻、卜部、北村、斎藤文紀、
 斎藤めぐみ、藤原、水野、米田
 欠席：出穂、岡崎、奥村、小森、佐藤、宮内

審議事項

1. 大会の役割分担を確認した。
2. 年間スケジュールを確認した。
3. 第四紀通信の掲載内容と担当者を確認した。
4. 木越名誉会員を偲ぶ会への供花について審議し、2万円程度の供花を送ることとした。
5. 評議員会に諮る資料の内容（会則の変更、事業計画、学会功労者など）を確認した。

◆日本第四紀学会 2014 年度第 2 回幹事会議事録

日時：2014 年 9 月 7 日（日）17:45～18:00
 場所：東京大学環境棟 1 階 FS ホール
 出席：小野会長、吾妻、北村、斎藤文紀、斎藤めぐみ、
 藤原、水野、米田
 欠席：出穂、卜部、岡崎、奥村、小森、佐藤、宮内

報告事項

1. 東京大学大気海洋研究所所長から、本学会ホームページに掲載された 2014 年度大会の共催の文書に誤りがあることが指摘された。

審議事項

1. 東京大学大気海洋研究所所長からの指摘箇所を早急に訂正するとともに、所長にお詫び状を出すこととした。
2. 学会ホームページの運営は、現行の 1 名だけでは緊急時に対応できない場合があるので、複数人が対応できる状況に変更することとし、ホームページの管理会社との契約を検討することとした。また、これまでのボランティアによる運営ではなく、雇用によって定期的な更新を確実に行うこととした。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：齋藤めぐみ (memekato(at)kahaku.go.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 国立科学博物館 地学研究部 齋藤めぐみ
〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 FAX : 029-853-8998

広報委員：那須浩郎・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176